



——「熱点」とは中国語で、今注目のホットな話題、という意味である

2009年中国人民元建て貿易決済の実績と今後の拡大に向けた展望

I. 世界一になるも前年比で減少した2009年の輸出実績

1. 2009年は輸出世界一だが前年比で27年振りの減少

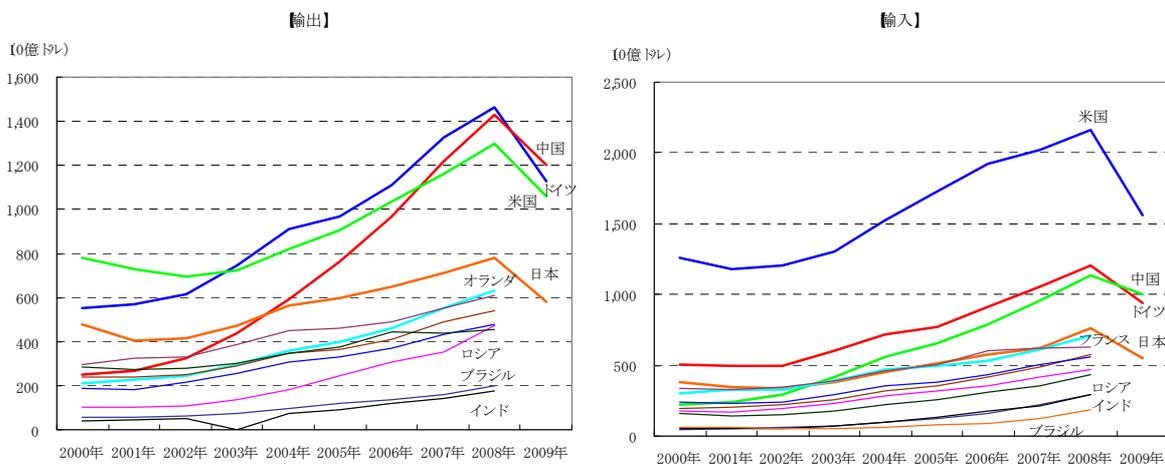
2010年1月15日の中国商務部の発表によれば、2009年の中国の輸出額は1兆2,017億ドルで、同年のドイツの輸出額1兆1,280億ドルを上回り、初の輸出世界一となった(図表1)。また、輸入金額では米国が引き続き世界第1位であるが、2009年の中国の輸入額は1兆56億ドルで、輸出同様、同年のドイツの輸入額9,394億ドルを上回り、世界第2位となった。前年の2008年の世界の輸出に占める中国のシェアは8.9%で世界第2位、同じく輸入に占めるシェアは6.9%で世界第3位であったことから考えると、世界貿易の中での中国の存在感は確実に高まってきていると言える。

ところが、中国の輸出が世界第1位、輸入が第2位となったからといって、手放しでは喜べない事情がある。それは、貿易総額、輸出、輸入ともに、前年比でそれぞれ13.9%、16.0%、11.2%減少したためである。貿易総額が前年比で減少したのは1998年以来11年振り、同様に輸出は1982年以来27年振り、同様に輸入は1998年以来11年振りとなった。

2. 人民元建て貿易決済のスタート

特に中国の輸出入動向が悪化したのは、2008年秋口以降で、このため、中国政府は、輸出企業の支援策(為替変動リスクの回避)として、2008年12月、人民元建て貿易決済の導入を決定

図表1 主要各国の輸出及び輸入の推移



(出所) WTO、米国通関統計、中国商務部、ドイツ連邦統計庁より野村資本市場研究所作成

した¹。具体的には、2009年7月より、上海市・広東省（広州、深圳、珠海、東莞）—香港間で人民幣建て貿易決済のテストがスタートした。貿易相手先としては、香港以外に、マカオやASEANも対象として指定された。

実務上は、中国大陸側では、中国政府が認定した365社に人民幣建て貿易決済が認められ、日系企業10社を含む中国進出の外資系企業182社にも開放された。中国大陸側での人民幣建て貿易決済業務の銀行ライセンスは、地場銀行に加え、日本のメガ三行を含む外資系銀行にも開放された。

II. デファクトで進み始めた人民幣建て貿易決済

1. 2009年の人民幣建て貿易決済金額は35.8億元

それでは、2009年の人民幣建て貿易決済の実績はどれぐらいになったのであろうか。

2010年2月11日付で中国人民銀行（中央銀行）から発表された「中国貨幣政策執行報告（2009年第4四半期）」によれば、2009年の人民幣建て貿易決済は計409件、35.8億元となった²。同行から2009年11月11日付で発表された「中国貨幣執行報告（2009年第3四半期）」では、2009年7月6日から9月30日までの人民幣建て貿易決済額は1億元と発表していることを考えると、同年10月以降に実績が伸びていった様子が伺える。

また、人民幣建て貿易決済業務の取扱量でトップに立っているのが中国銀行である。2009年に中国銀行が取り扱った人民幣建て貿易決済金額は11億元となり³、上記の実績との比率では約3分の1を占めたことが分かる。また、地域別の人民幣建て貿易決済業務の取扱量では、上海が全国の56%を占めており、うち中国銀行は上海市場の51%⁴、同じく広東省市場の55%を占めているようである⁵。

2. 事実上拡大する貿易相手先

人民幣建て貿易決済は、導入当初は貿易相手先として香港・マカオとASEANが想定されていたが、2009年の中国銀行の取り組み実績を見ると、テスト以外の貿易相手先、例えばロシア、ブラジルとの間でも行われている。中国銀行は、元々の外為専門銀行としての地位から海外に多数の営業拠点を持っており、一旦、人民幣建て貿易決済に必要な国内拠点—海外拠点間の決済ルートをIT面も含め開発してしまえば、原則、対応可能であるためと思われる。

2010年に入ってから、1月下旬には南アフリカ共和国との間で（鉄鋼と繊維）、2月下旬にはオーストラリアとの間で（同行の豪州重点顧客であるAuswaste Recycling Pty Ltd.）人民幣建て貿易決済の実績が出ている。また、国内テスト地域も事実上拡大している。中国銀行広東省支店によれば、省内の4つのテスト都市以外に、既に仏山、中山、惠州、江門、梅州、揭陽、湛江といった都市でも人民幣建て貿易決済の実績が出ており、むしろ利用促進に向けたプロモーションの結果であるともしている。

¹ 関根栄一「中国の人民幣建て貿易決済の導入と人民幣の国際化」『季刊中国資本市場研究』2010年冬号を参照。

² 国内決済銀行が海外参加銀行のために開設した人民幣口座は160（残高6.9億元）、中国銀行（香港）が海外参加銀行のために開設した人民幣口座は53（残高486.2億元）となった。

³ 2009年12月21日時点。http://www.boc.cn/bocinfo/bi1/200912/t20091222_927645.html

⁴ 2010年2月3日時点。http://www.boc.cn/bocinfo/bi1/201002/t20100211_967099.html

⁵ 2010年3月3日時点。http://www.boc.cn/bocinfo/bi1/201003/t20100303_977280.html

Ⅲ. 今後の上海市と広東省の取り組み

1. 上海市は大型企業集団とグローバル企業を中心に促進

上述のような銀行サイドの取り組みは、各地方政府が輸出の減少に危機感を持っていることの反映でもある。

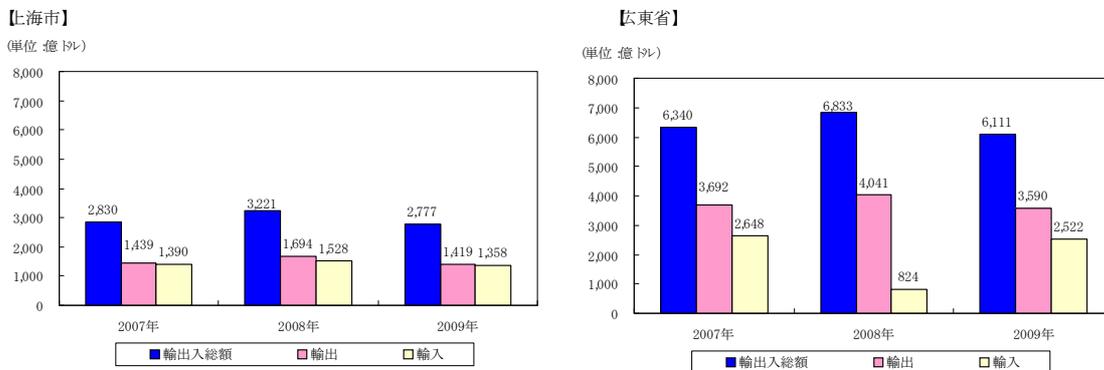
例えば、上海市の場合、輸出入総額は 2008 年の 3,221 億ドルから 2009 年には 2,777 億ドルとなり、13.8%減少した。同様に輸出も、2008 年の 1,694 億ドルから 2009 年には 1,419 億ドルとなり、16.2%減少した（図表 2）。輸出先を地域別に見てみると、中南米、欧州向け輸出の落ち込みが激しかったことが分かる（図表 3）。

上海市政府としては、2010 年も引き続き人民元建て貿易決済を推進していく方針である。この方針は、2010 年 2 月 4 日に開催された上海市国際金融センター構築業務促進小グループ会議でも確認されている。また、同年 2 月 26 日に開催された上海市外為管理業務会議では、特に大型企業集団やグローバル企業の人民元建て貿易決済業務を支援する方針を確認している。

2. 広東省はテスト企業の拡大を推進

広東省の場合、輸出入総額は 2008 年の 6,833 億ドルから 2009 年には 6,111 億ドルとなり、10.8%減少した。同様に輸出も、2008 年の 4,041 億ドルから 2009 年には 3,590 億ドルとなり、

図表 2 上海市及び広東省の輸出入動向



(出所) 上海市政府、広東省政府より野村資本市場研究所作成

図表 3 上海市及び広東省の主要輸出先

【上海市】				【広東省】			
地域	輸出金額(億ドル)	構成比(%)	前年比(%)	地域	輸出金額(億ドル)	構成比(%)	前年比(%)
アジア	574	40.4%	-14.2%	香港	1,159	32.3%	-34.9%
日本	161	11.3%	-19.7%	日本	174	4.9%	-12.9%
香港	110	7.7%	-12.6%	韓国	83	2.3%	-2.6%
大洋州	40	2.8%	-13.7%	ASEAN	268	7.5%	-4.0%
欧州	371	26.1%	-20.8%	米国	689	19.2%	-10.3%
北米	344	24.2%	-14.7%	欧州	540	15.0%	-7.1%
米国	321	22.6%	-13.8%	ロシア	25	0.7%	99.5%
中南米	59	4.1%	-21.3%	全体	3,590	100.0%	-11.5%
全体	1,419	100.0%	-16.2%				

(出所) 上海市政府、広東省政府より野村資本市場研究所作成

11.5%減少した（前掲図表 2）。輸出先を地域別に見てみると、香港向けで大きく減少している一方で、ロシア向け輸出が、広東省の輸出全体に占める割合は小さいものの、前年比で倍近く伸びていることが分かる（前掲図表 3）。

こうした中で、広東省政府は、2010年2月26日及び27日の2日間にわたり、広東省クロスボーダー人民幣建て貿易決済テスト業務促進会議を開催し、以下の方針を確認している。一つ目は、省内テスト企業の第二陣として3,293社を既に中央政府に報告し承認待ちの状態であることを明らかにする一方で⁶、第三陣のテスト企業の選定に着手するとしている点である。二つ目は、人民幣建て貿易決済に関する審査・報告といった手続きを簡素化したり、実務面での障害を取り除くことを約束している点である。三つ目は、香港やマカオ向けの電力・水・食料品の供給（貿易）を人民幣建てで行おうとしている点である。四つ目は、メコン川流域を含むASEAN10カ国との人民幣建て貿易を促進するとしている点である。五つ目は、モノの貿易だけでなく、サービス貿易や投資・融資も人民幣建てでテストを行おうとしている点である。

IV. 香港での人民幣オフショア業務の拡大の動き

以上のような人民幣建て貿易決済業務の拡大のためには、大陸外で受け取った人民幣を運用できる人民幣建て金融商品の開発・発展や、人民幣建てでの資金調達市場が必要なことが引続き課題である。香港では、2004年から人民幣預金が解禁され、2007年からは居住者（大陸系金融機関）による人民幣建て債券の発行が解禁され、2009年には中国政府による人民幣建て国債も発行されている⁷。

但し、2009年末時点の人民幣預金残高で見ると、大陸の60兆元に対し、香港は627億元とまだまだ小規模である。人民幣建て貿易決済の主要な相手先となった香港は、香港自身を人民幣オフショア市場として育成し、やがて台頭する大陸内金融センターとの違いを出しながら、早めに布石を打っていく戦略を採っている。

人民幣オフショア市場の更なる発展のために、香港金融管理局（HKMA）は、2010年2月11日、香港の法的要件や市場原則を満たせば、非大陸企業（大陸から見れば非居住者）による人民幣建て債券の発行を容認する方針を打ち出している（*Elucidation of Supervisory Principles and Operational Arrangements Regarding Renminbi Business in Hong Kong*）⁸。同時に、香港での人民幣建て貸出も容認するとしている。このような人民幣オフショア業務の拡大は、現段階ではまだ原則を確認した段階に留まっているが、現在、大陸内で進められている外資系銀行（現地法人）による人民幣建て債券の発行や上海証券取引所における国際板（東証外国部に相当）創設に向けた動きを香港側が意識していることと無縁ではないだろう。このような香港での人民幣の調達・運用市場の規制緩和という観点からも、人民幣建て貿易決済の動向から今後も目が離せない。

株野村資本市場研究所 主任研究員
関根 栄一

⁶ 広東省4都市のテスト企業の第一陣は計273社。

⁷ 関根栄一「中国政府による香港での人民幣建て国債発行のインパクト」『季刊中国資本市場研究』2009年秋号を参照。

⁸ http://www.info.gov.hk/hkma/eng/guide/circu_date/20100211e1_index.htm